

## 平成19年度第2回千葉市図書館協議会議事録

- 1 日 時 平成20年3月25日(火) 午後1時30分～午後4時00分
- 2 場 所 中央図書館2階 会議室
- 3 出席者
  - (1) 委員  
齊藤誠一 委員(委員長)、三宅壽美子 委員(副委員長)、宮脇延江 委員、  
秋元寛 委員、藤本純男 委員、和田麻理 委員、中山幸子 委員、鷲山和子 委員、  
上原正隆委員、安岡貴美代 委員
  - (2) 事務局  
田口中央図書館長、土橋中央図書館管理課長、植草中央図書館情報資料課長、  
鶴岡みやこ図書館長、岩井花見川図書館長、中西稲毛図書館長、秋谷若葉図書館長、  
小川緑図書館長、芝崎美浜図書館長、石井中央図書館管理課主幹、  
白壁中央図書館情報資料課主幹、浜田中央図書館管理課企画運営係長、  
鈴木中央図書館管理課主査補
- 4 議 題
  - (1) 報告
    - ア 新システム運用状況について
    - イ 平成18、19年度千葉市図書館協議会「委員の意見・提言」の反映状況について
  - (2) 協議
    - ア 平成19年度事業経過報告について
    - イ 平成20年度事業計画について
- 5 議事の概要
  - (1) 報告
    - ア 新システム運用状況について  
次の ~ について事務局から報告  
予約サービス利用状況  
レファレンスサービス利用状況  
有料宅配サービス利用状況について
    - イ 平成18、19年度千葉市図書館協議会「委員の意見・提言」の反映状況について  
対応済のもの、検討及び調整中のものについて事務局から報告
  - 【質疑応答】・【協議】 (1) について
  - (2) 協議
    - ア 平成19年度事業経過報告について  
次の ~ について事務局から報告  
図書館利用状況について  
子ども読書活動推進計画関連事業実施状況について  
中央図書館事業実施状況について  
地区図書館事業実施状況について
    - イ 平成20年度事業計画について  
次の ~ について事務局から報告

平成20年度予算について

平成20年度事業計画(予定)について

【質疑応答】・【協議】 (2)について

6 会議経過

開 会

定足数の確認(図書館協議会委員10名の出席をもって成立)

議 事

事務局 以下のとおり報告

ア 新システム運用状況について

予約サービスの利用状況

平成19年度から、館内利用者用端末機とインターネットによる図書資料の予約が可能になった。4月から1月までの小計で平成18年度と平成19年度の予約件数を比較すると、窓口予約が減っているが、館内利用者用端末機及びインターネットによる件数を合わせると約65万3千件となり、平成18年度の約2倍になっている。

レファレンスサービス利用状況

平成19年度から電子メールによるレファレンスが可能となったが、4月から1月までで12件と少ない。4月から1月までの窓口等のレファレンスは、合計で約6万件である。

有料宅配サービス

当図書館協議会、市議会より要望のあった有料宅配サービスを10月から、県内で4番目に実施した。10月から1月までの利用は、図書資料の貸出と返却の合計152点である。注意点として、障害者については従来どおり無料で図書資料の宅配を実施している。

イ 平成18、19年度千葉市図書館協議会「委員の意見・提言」の反映状況について

当図書館協議会委員から2年間で33件の意見・提言があった。その中で対応済みのものは21件、検討及び調整中のものは12件である。その中で主なものについて説明する。

「これからの図書館像 地域を支える情報拠点をめざして」(文部科学省)の提言を真摯に受け止め、図書館行政に反映させていくべきであるという提言については、現在検討中である。

子ども読書活動推進計画関係で中学生・高校生に対する読書の啓発活動をして欲しいという提言については、中学生に対して職場体験や調べ学習などの図書館サービスを通じて働きかけた。高校生についてはどのようなサービスが適切なのか今後研究していきたい。また、中央図書館では、中学生・高校生に興味の持てる展示に力を入れた。

インターネットで団体貸出の予約ができるようにして欲しいとの提言については、団体貸出は限られた蔵書の活用であり、インターネット予約については難しい点があり関係団体と研究していきたい。

館内利用者端末機の操作方法がわからない利用者には職員が手助けして欲しいとの提言については、現在個人や団体の要望に対応している。

佐倉市のように宅配サービスの範囲を、障害者だけでなく一般の人にも拡大して欲しいとの提言については、平成19年10月から有料宅配を実施した。

企画展示関係で子どもを対象として、図書館の企画展示を起点として実体験に結びつけるための見学会等を実施して欲しいとの提言については、谷津田に関する企画展示と講演会を通じ、ボランティア制度を紹介した。今後も検討していきたい。

報告だけで終わってしまう図書館協議会は何とかなければならない。「図書館雑誌」(平成19年2月号)に図書館協議会の特集があり、図書館協議会の活動、役割についての記事が掲載されている。これを読むと委員の役割について考えさせられるところがあった。また会議の内容をインターネットで情報公開をしていくべきとの記事もあるので参考として欲しい。以上の提言については、図書館への提言をいつでも委員からいただけるように電子メールを開設した。また、会議の内容をインターネットで公開した。

#### 【質疑応答】・【協議】

- 委員 館内利用者用端末機の操作方法の講習を受けたいときはどうするのか。
- 事務局 日時、人数を窓口で申込みしてもらえれば対応する。
- 委員 この講習会の広報しているのか。
- 事務局 これから、館内に掲示をしていきたい。
- 委員 有料宅配サービスの料金は、一般の宅配便より安いのか。
- 事務局 千葉市内は梱包サイズにより400円から450円まで、千葉市以外の千葉県内は梱包サイズにより450円から550円までとなっている。梱包サイズが小さいものでハード本7冊が入り、大きいサイズでは紙芝居も入る。
- 委員 有料宅配サービスを実施するに当たって、障害者に対しては従来どおり無料のサービスがあるので配慮されているようだが、図書館法第17条に無料の原則があり、これに抵触しない理由づけが必要である。できれば、事前に当図書館協議会に諮るべきではないか。無料の原則に抵触しない理由を聞かせてもらいたい。
- 事務局 インターネットなどを利用した新しいサービスについては、図書館界でも議論の対象となっているが、本市の有料宅配サービスについては日本図書館協会でも幅広い図書館サービスとして期待されている。これからは図書館協議会の意見も聞いていきたい。
- 委員 学校への団体貸出の充実について、平成20年度から図書館指導員の配置の割合が小学校から中学校に重点を置くことになり、小学校は週2日に減った。そのため団体貸出用図書には、いい本があるにも拘わらず益々活用しにくくなる。そこで、団体貸出のインターネットによる予約について前向きに検討をお願いしたい。また、団体貸出用図書の搬出・搬入に移動図書館車を利用できるよう前向きに検討してもらいたい。

事務局 移動図書館車は、1台で市内28か所のステーションを月に2回巡回しているので、手一杯の状態である。団体貸出のインターネットによる予約については、これからも検討していきたい。

委員 千葉市内の公共図書館、大学図書館、独立行政法人図書室等の会員で構成される千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、設立されて十年以上になる。目的は、会員の相互協力で、最終的には物流まで実施しなければならないと思う。しかし、予算の問題があり立ち消えになっている。そこで、学校図書館グループ、公共図書館グループ、千葉市図書館情報ネットワーク協議会グループの各グループを越えた大きい物流のネットワークを構築できないだろうか。

事務局 学校図書館、千葉市図書館情報ネットワーク協議会の物流については、これからも研究していきたい。

委員 図書資料をインターネットにより予約する者のうち、高齢者の割合が多いとか特徴的なことはあるか。

事務局 年代別の利用率の統計は取っていないが、インターネットの普及率が上がっているので普通にインターネットを利用している方が使用していると思われる。インターネットが使えない方には、従来どおり電話での予約も行っている。

委員 インターネットによる予約の特徴的なことは、閉架書庫にある図書の流通が増えることである。従来は開架にある図書を選んでいたが、インターネットにより閉架書庫にある図書が見られるようになるためである。

委員 予約サービス利用状況に掲載された件数とは、利用者が予約した件数なのか、それとも利用者に貸出した件数なのか。

事務局 予約サービス利用状況に掲載された件数は、利用者が予約した件数である。

委員 インターネットで予約したものについては、キャンセルなどにより貸出し率が低くなっていることはないか。

事務局 インターネットで予約したものについても、窓口予約と同じく予約督促をしており、キャンセルはごく僅かである。

事務局 以下のとおり報告

ア 平成19年度事業経過報告について

図書館利用状況について

平成20年1月末現在の平成19年度の来館者数と貸出冊数について説明。

子ども読書活動推進計画関連事業実施状況について

主なものとして、子ども読書まつり、定例おはなし会、地域おはなしボランティア養成講座、地域おはなしボランティアの活動、児童文学講座について説明。

中央図書館事業実施状況について

主なものとして、図書館職員初任者研修、図書館職員全体研修、音訳協力者及び図書館職員対象の音訳研修、企画展示、千葉の古墳の巡回展、図書資料のリサイクル、図書館だよりについて説明。

地区図書館事業実施状況について

[ みやこ図書館 ]

主なものとして、ブックトーク、中学生の職場体験、保育所おはなし会、図書館学校連絡会、歴史講座について説明。

[ 花見川図書館 ]

主なものとして、夏休みのイベントの「科学あそびの部屋」、子ども読書まつりの講演会「著者になるまで」、映画会を説明。

[ 稲毛図書館 ]

主なものとして、定例おはなし会、親子おはなし会、はじめてのおはなし会、子ども読書まつりを説明。

[ 若葉図書館 ]

主なものとして、子ども読書まつり及びその中の消防車見学、泉分館の展示事業、泉分館のPR事業を説明。

[ 緑図書館 ]

主なものとして、おはなし会、夏休みのイベントのマジックショーと映画会、ブックトークを説明。

[ 美浜図書館 ]

主なものとして、定例おはなし会、打瀬分館でのおはなし会及びイベントを説明。

イ 平成20年度事業計画について

平成20年度予算について

平成20年度の中央図書館管理運営費、地区図書館管理運営費、図書館システム費の予算額を説明。図書資料費については1億1781万7千円で、市民1人当たり125円となり、政令指定都市の中では平均的な数値である。

平成20年度事業計画（予定）について

中央図書館

- ・子ども読書活動推進計画関連事業の主なものとして、地域おはなしボランティア養成講座について説明。
- ・中央図書館事業の主なものとして、図書館市民講座、音訳協力者について説明。

地区図書館

- ・子ども読書活動推進計画関連事業の主なものとして、ブックトークについて説明。
- ・地区図書館事業の主なものとして、図書館市民講座について説明。

【質疑応答】・【協議】

委員 地域おはなしボランティアの活動場所はどこか。

事務局 保健福祉センターが一番多く、4か月児健康診査のときに活動している。次に小学校、公民館、保育所、幼稚園などである。

委員 千葉市の地域性を出した特色のある図書館にしてもらいたい。特に、地域活動、地域づくりをしていくための資料を後世に残して欲しい。また、この地域資料の存在を市民に広報することに力を入れて欲しい。

- 事務局 図書館として、PRに努めていきたい。
- 委員 平成20年度予算の中に、オストメイト対応トイレ設備の整備があるが、これは何か。
- 事務局 オストメイトとは、病気などが原因で腹部にストーマと呼ばれる排泄孔を人工的に造設した方のことをいう。この方が使用するための設備があるトイレのことである。これは保健福祉局の緊急整備事業として予算化した。
- 委員 図書館では、車椅子を使用するときに障害物となる段差があるのか。
- 事務局 中央図書館、緑図書館などの新しい建物は段差がないバリアフリーとなっているが、一部の古い図書館では職員が車椅子を押している。
- 委員 子ども読書活動推進計画関連事業について計画期間全体の目標及び進捗状況等を総括したものがあるのか。また次期の子ども読書活動推進計画を作る予定はあるのか。そのような資料があれば図書館のホームページ等で市民に公開して欲しい。
- 事務局 子ども読書活動推進計画の期間は5年間であり、平成20年度が最終年度にあたり平成21年度に、その総括をする予定である。この計画の進捗状況を確認するため子ども読書活動推進会議を開催している。
- 委員 カウンター担当の図書館職員がよく替わることがあるが、少なくとも児童向けのカウンターでは、児童と親が安心して、いつ来ても相談できるよう同じ職員を配置して欲しい。また、公民館図書室の問題と指定管理者制度について検討をしているなら、その内容を聞きたい。
- 事務局 中央図書館では、平日は午後9時まで、土日曜・祝日も開館しているため、カウンターの担当職員はローテーションで配置している。  
公民館図書室の問題については、現在の公民館図書室体制にしたときに組織も同時に再編したので、公民館図書室を図書館法でいう図書館に組み入れる考えはない。  
指定管理者制度については、他市の状況を見ている段階であり、指定管理者制度を導入しているところを参考に必要かどうか検討していきたい。
- 委員 図書館の予算が減っていると思う。予算全体で見ると平成18年度は約10億円で、平成19年度では約8億円になっているが、図書費も約1千万円減っているのではないか。
- 事務局 平成20年度の資料費については、平成19年度に対して約33%の減である。
- 委員 図書館協議会の仕事には、図書館長から諮問を受けて運営に関する答申を出すことと、方針に関する意見具申があると思う。図書館は市民に利用されており、きちんと役目を果たしているので、予算・職員等に関して対処してくれるよう意見具申してもよいのではないかと思う。
- 委員 33%減の予算は、今から動かすことができないか。
- 事務局 議会で承認されたので変更はできない。図書館全体の予算では、約7.8%の減である。
- 委員 心の栄養となる図書館を維持していくためには、予算を減らして欲しくない。

委員 予算が削減されていく中で、どこに力を入れていくのか。また、図書館協議会の意見が予算獲得の手助けになるのであれば、予算獲得の前に図書館協議会を開催したらよいのではないかと。

事務局 図書館のサービスについては、職員が知恵を出して色々な事業を実施している。子ども読書活動推進計画関連事業では、文部科学省の大臣表彰も受けており、予算をかけないで各種の事業を実施している。また、選書の仕方も新刊本・ベストセラー本などの図書の購入は、寄贈を考慮するなど検討していく。

図書館協議会の開催時期については、検討していきたい。

委員 図書費の削減は、小さな図書館にとっては相当のダメージがあると思う。市民の期待があるので図書費を獲得してもらいたいということを図書館協議会として言っているのではないかと。このことを次の任期の委員に申し送りしてもらいたい。

閉会